

機 械

1. 評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	16
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	5	36
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	11
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 26 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 当業種は、2023 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2022 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうち、**ESG 関連**を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.2 点（前回 72.8 点）、総合評価点の標準偏差は 10.1 点（前回 12.8 点）であった。なお、評価対象企業 19 社のうち 14 社の総合評価点が下がった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（前回同率）、**説明会等**が 76%（前回 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 81%（前回 80%）、**ESG 関連**が 66%（前回 71%）、**自主的情報開示**が 67%（前回 59%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 13 項目中、次の 2 項目（フェア・ディスクロージャーの中の 2 項目）の平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

(a) 「[フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢] 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率 82% [前回 84%]）（得点率（評価点/配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 15 社・90%台 1 社）

(b) 「[ウェブサイトにおける情報提供] 決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでもわかるようにな

っていますか」(平均得点率 84% [前回 79%]) (得点率: 0%3 社・100%16 社)

④ なお、これまでの報告書において改善を求めてきた、**フェア・ディスクロージャー**の中の「ウェブサイトにおける情報提供」(2 項目)については、改善傾向にあるものの、一部の企業においては、依然として 0%評価となっており、当該企業には早急の改善を求めたい。

⑤ **ESG 関連**の 5 項目については、次のとおりとなった。(d)を除く各項目の内容については、本年度、大幅に見直しを行ったため、前回比は示していない。なお、(a)は、全 13 項目中で、最も低い平均得点率となった。多くの企業が 0%評価であり、当該企業の改善努力を求めたい。

(a) 「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 29%) (得点率: 0%11 社・60%6 社・100%2 社)

(b) 「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 74%) (得点率: 60%台 5 社・70%台 8 社・80%台 6 社)

(c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 72%) (得点率: 60%台 4 社・70%台 14 社・80%台 1 社)

(d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」(平均得点率 74% [前回 76%]) (得点率: 60%台 5 社・70%台 10 社・80%台 4 社)

(e) 「資本政策(資本コスト・キャピタルアロケーション等)、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 69%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 8 社・70%台 7 社・80%台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 荏原製作所 (ディスクロージャー優良企業 [初受賞])

総合評価点 85.7 点 [前回比+1.5 点]、前回第 2 位]

① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**(得点率〈以下省略〉95%)、**ESG 関連**(85%)が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**(83%)、**自主的情報開示**(85%)が第 2 位、**説明会等**が第 3 位(85%)となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップをはじめ経営陣が IR に積極的に関与しているとの声のほか、決算説明会やスモールミーティングで経営トップの改革に対する熱意が伝わってくるとの声が寄せられた。「IR 部門の機能」は第 6 位となった。投資家のニーズに合わせて他部門との連携ができているとの声がある一方、IR 部門からの情報の質が向上しているとしつつ、さらに的確な情報の提供を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等(短信及びその付属資料・説明会資料)における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(同得点第 4 位)も、前回に比べ、得点率が改善した。これらに関連して、投資家が必要とする情報が決算説明会資料に一元化され、わかりやすいとの声が寄せられた。なお、顧客別の動向に関する追加説明や為替感応度の開示を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目も、いずれも満点評価となり、これらの結果、この分野におけるトップ(前回同得点第 2 位)となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が満点評価となったほか、「社会に関する項目」および「コーポレート・ガバナンスに関する項目」が共に最も高い評価となった。そのほかの 2 項目も、いずれも 80%以上の得点率となり、これらの結果、この分野におけるトップ(前回同得点第 3 位)となった。これらに関連して、経営トップや社外取締役と投資家とのスモールミーティングを定期的で開催していることを評価する声が寄せられたほか、開示において TCFD シナリオ分析による事業別インパクトが詳細かつ定量的であることを評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」(第 2 位)は高い評価となった。これに関連し、熊本工場や藤沢工場

の見学会は、各製品の強みや生産部門の改善努力を体感できて有意義だったとの声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 小松製作所（総合評価点 84.8点〔前回比－4.1点〕、前回第1位）

- ① 同社は、説明会等が同得点第1位（86%）、ESG 関連が第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等（82%）、自主的情報開示（85%）が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）および「IR 部門の機能」（第3位）が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的に関与し、説明も明快であるとの声や、四半期毎の経営トップのスマールミーティングの開催を評価する声が寄せられた。また、IR 部門については、経営陣と投資家との橋渡しの役割を果たしているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（同得点第3位）も評価されたが、前回に比べ、得点率が下がった。これらの結果、この分野において同得点第1位（前回第1位）となった。これらに関連して、説明資料は全体的に優れているとの声や、需要環境が明示されており参考になるとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）についても、高い評価となった。これらの結果、この分野において同得点第3位となった。これらに関連して、決算説明会について、質疑応答を含めた動画をウェブサイトに掲載しており、フェア・ディスクロージャーへの配慮がなされているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が満点評価となった。これに関連して、社外取締役と投資家とのミーティングは、資本効率や株主還元について考える上で参考になったとの声があった。また、「社会に関する項目」および「コーポレート・ガバナンスに関する項目」が共に第2位になり、他の2項目も80%以上の得点率となった。これらに関連して、会社としての取組みがわかりやすいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第3位）は高い評価となった。これに関連し、事業説明会の開催を評価する声があったほか、定期的に行われる工場見学会が評価され、特に、大阪工場見学会が有益だったとの声があった。

第3位 ダイキン工業（総合評価点 79.8点〔前回比－7.3点〕、前回第3位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（84%）、説明会等が同得点第1位（86%）、ESG 関連が第3位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第9位（92%）、自主的情報開示が同得点第11位（70%）となった。前回に比べ、ESG 関連および自主的情報開示の得点率が大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢」（同得点第3位）も評価された結果、この分野における第1位となった。これらに関連して、経営トップが積極的に説明会に関与しており、決算説明会でのメッセージも評価できるとの声が寄せられた。なお、個別やスマールのミーティングを期待する声があった。IR 部門については、情報集積が高く、アクセスも容易であるとの声や、投資家のニーズを踏まえた対応に努めているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」（第2位）および「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（第2位）が共に高い評価となり、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、IR 担当者の回答が的確であるとの声や、質疑応答を含めたスクリプトを開示している点を評価する声があった。なお、PFAS（有機フッ素化合物）などの訴訟や規制動向について継続的な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に満点の評価となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第11位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、環境に関する項目が同得点第1位となった。また、社会に関する項目が第3位となり、

「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が同得点第 3 位となった。なお、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること」は同得点第 9 位、「コーポレート・ガバナンスに関する項目」は同得点第 11 位であった。これらに関連して、サステナビリティ説明会を毎年開催し企業価値向上の取組みを紹介していることを評価する声があった。

- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第 11 位）は、前回に比べ、得点率が下がった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **アマダ**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 74.8 点〔前回比+10.5 点、前々回比+3.8 点〕、第 9 位〔前回第 15 位、前々回第 14 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（80%）、説明会等が同得点第 7 位（79%）、ESG 関連が第 10 位（66%）、フェア・ディスクロージャーが第 12 位（91%）、自主的情報開示が第 13 位（68%）となった。前回に比べ、ESG 関連および自主的情報開示の得点率が大幅に上昇し、総合評価点で+10.5 点となった。なお、順位は、前回に比べ 6 ランク、前々回に比べ 5 ランク上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第 5 位に、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 5 位となった。これらに関連して、会長および社長が自ら四半期毎の説明会に毎回出席していることを評価する声が寄せられた。なお、経営戦略に関して一層のアピールが必要との声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」が第 7 位に、「説明会、インタビューにおける開示」が第 8 位となった。四半期毎の役員による取材対応を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目が共に満点の評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、そのほかの項目の多くも、得点率が大きく改善した。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第 13 位）は、前回と比べ、得点率が大幅に改善した。これに関連して、中期経営計画説明会、ショールーム見学会は、経営方針を理解する上で、有益だったとの声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（機械）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディス クロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 26点)		評価項目2 (配点 16点)		評価項目3 (配点 11点)		評価項目5 (配点 36点)		評価項目1 (配点 11点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6361 荏原製作所	85.7	21.6	2	13.6	3	10.5	1	30.6	1	9.4	2	2
2	6301 小松製作所	84.8	21.4	3	13.8	1	10.3	3	30.0	2	9.3	3	1
3	6367 ダイキン工業	79.8	21.8	1	13.8	1	10.1	9	26.4	3	7.7	11	3
4	6506 安川電機	79.2	20.5	6	13.5	4	10.4	2	26.0	5	8.8	5	5
5	7012 川崎重工	77.8	19.9	7	12.9	6	10.3	3	25.9	6	8.8	5	10
6	6305 日立建機	76.3	19.0	10	12.7	7	10.3	3	25.4	7	8.9	4	6
7	6370 栗田工業	75.2	18.5	11	12.1	10	10.2	7	26.2	4	8.2	8	4
8	7011 三菱重工	74.9	19.1	9	11.9	12	10.1	9	24.0	9	9.8	1	8
9	6113 アマダ	74.8	20.8	5	12.7	7	10.0	12	23.8	10	7.5	13	15
10	6326 クボタ	70.6	19.9	7	12.5	9	7.2	14	22.6	12	8.4	7	9
11	6383 ダイフク	69.1	21.2	4	13.1	5	4.0	18	22.7	11	8.1	10	14
12	7013 IHI	66.9	16.7	14	11.3	14	9.8	13	21.4	13	7.7	11	11
13	6471 日本精工	66.7	15.3	17	11.0	15	10.2	7	24.5	8	5.7	14	12
14	6302 住友重機械工業	66.0	15.7	16	10.6	16	10.1	9	21.4	13	8.2	8	13
15	6268 ナブテスコ	62.8	15.9	15	10.6	16	10.3	3	21.4	13	4.6	18	7
16	6273 SMC	62.1	16.8	13	12.0	11	7.1	16	20.7	16	5.5	15	19
17	6586 マキタ	57.6	16.9	12	11.7	13	3.8	19	20.1	17	5.1	16	16
18	6481 THK	54.9	13.4	18	10.2	18	7.2	14	19.4	19	4.7	17	17
19	6954 ファナック	48.3	9.3	19	9.7	19	6.4	17	19.6	18	3.3	19	18
	評価対象企業評価平均点	70.19	18.09		12.09		8.86		23.80		7.35		

2024年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者とは有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（16点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	8	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料・説明会資料）における開示		
・投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていますか。	8	
3. フェア・ディスクロージャー（11点）	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5	
(2)ウェブサイトにおける情報提供		
①決算説明会等の内容はウェブサイトで動画または音声で視聴できますか。	3	●
②決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか。	3	●
4. ESGに関連する情報の開示（36点）	配点	委員のみ
①ESG関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5	●
②環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8	
③社会貢献、人的資本、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8	
④コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	5	
⑤資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	10	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（11点）	配点	委員のみ
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	11	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

機械専門部会委員

部 会 長	田 井 宏 介	大和証券
部会長代理	下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
	井 原 芳 直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	佐 野 友 彦	JP モルガン証券
	前 川 健 太 郎	野村証券
	宮 崎 孝 志	三井住友トラスト・アセットマネジメント

評価実施アナリスト(26名)

井上 昂洋	シティグループ証券	下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
石田 重和	丸三証券	田 井 宏 介	大和証券
伊藤 辰彦	みずほ証券	谷 林 正 行	QUICK
猪股 彩香	大和証券	田 村 真 一	極東証券経済研究所
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	野 口 昌 泰	SBI 証券
王 博瓊	野村証券	柊 宏 二	QUICK
大平 光行	東海東京インテリジェンス・ラボ	堀 井 章	ニッセイアセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	前 川 健 太 郎	野村証券
小野 真奈美	SOMPO アセットマネジメント	グレース マクナルト	シティグループ証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道 脇 祐 介	三菱 UFJ 信託銀行
佐野 友彦	JP モルガン証券	宮 崎 孝 志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
澤田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント	八 木 原 謙 一	第一生命保険
清水 俊宏	アセットマネジメント One	渡 辺 洋 一 郎	水戸証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。